CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2024年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2024_v1.21

1-1 建物概要

建物名称	株式会社ベンチャーウイスキー両神貯蔵所新築工事	階数	地上1F
建設地	埼玉県秩父郡小鹿野町	構造	S造
用途地域	都市計画区域及び準都市計画域外、防火地域指定なし	平均居住人員	5 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月　予定	評価の実施日	2026年8月17日
敷地面積	5,634 ㎡	作成者	大和ハウス工業(株)北関東建築一級建築士事務所
建築面積	3,245 ㎡	確認日	2026年8月17日
延床面積	3,233 ㎡	確認者	大和ハウス工業(株)北関東建築一級建築士事務所

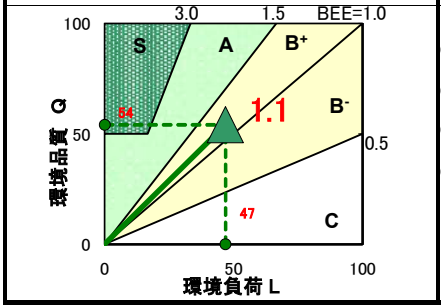
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEﾗﾝｸ&ﾁｬｰﾄ)

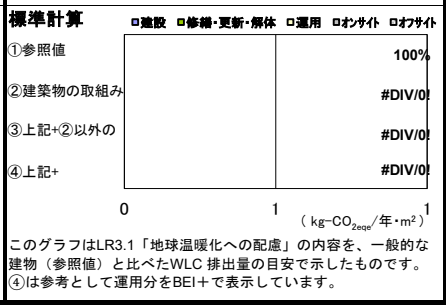
BEE =1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



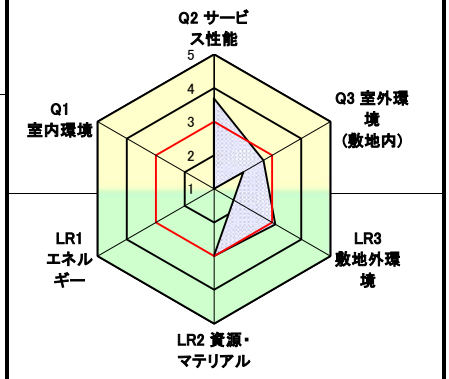
2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響ﾁｬｰﾄ)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたWLC 排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

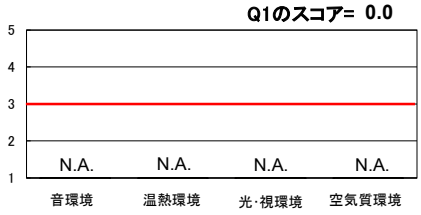
2-3 大項目の評価(ﾚｰﾀﾞｰﾁｬｰﾄ)



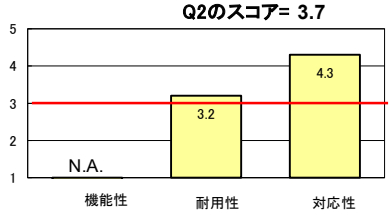
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.1

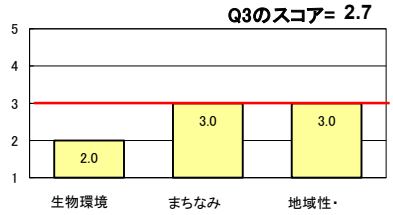
Q1 室内環境　Q1のスコア= 0.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.7

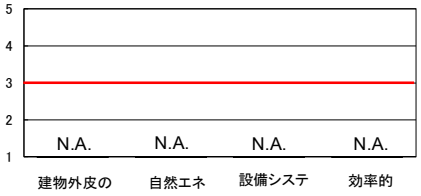


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.7

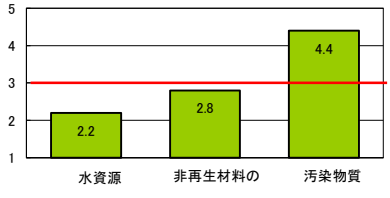


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.1

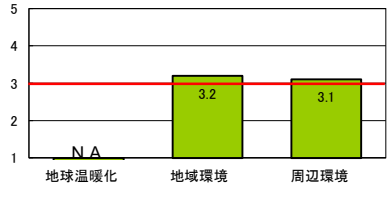
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 0.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.0



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.1



3 設計上の配慮事項

総合

「省エネルギーと物流効率を両立する環境配慮型倉庫」
LED照明、人感センサーによる省エネ高断熱屋根・外壁による空調負荷低減を目指している。

その他

-

Q1 室内環境

-

Q2 サービス性能

階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。

Q3 室外環境（敷地内）

防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。緑地を設けることにより良好な景観を形成している。

LR1 エネルギー

-

LR2 資源・マテリアル

ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。

LR3 敷地外環境

燃焼機器を使用しておらず、大気汚染物質を排出しない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2024年版
株式会社ベンチャーウイスキー両神貯蔵所新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.21

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			-		-	-
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル	―	-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能	―	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能	―	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	―	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	―	-	-	-	-	
1.3 吸音	―	-	-	-	-	
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	
1 室温	―	-	-	-	-	
2 外皮性能	―	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性	―	-	-	-	-	
2.2 湿度制御	―	-	-	-	-	
2.3 空調方式	―	-	-	-	-	
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率	―	-	-	-	-	
2 方位別開口	―	-	-	-	-	
3 昼光利用設備	―	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御	―	-	-	-	-	
3.3 照度	―	-	-	-	-	
3.4 照明制御	―	-	-	-	-	
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	
1 化学汚染物質	―	-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	
1 換気量	―	-	-	-	-	
2 自然換気性能	―	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	―	-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO_2の監視	―	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	―	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		―	0.43	-	-	3.7
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	
1 広さ・収納性	―	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	―	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	―	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	
1 広さ感・景観	―	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース	―	-	-	-	-	
3 内装計画	―	-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	―	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保	―	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.2	0.50	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	―	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	―	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		4.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	―	3.0	0.22	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	鋼製パネル35年	5.0	0.22	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:塗装20年、壁:鋼板40年、天井:アルミシート40年	5.0	0.11	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	―	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管についてはB以上で、他主要配管なし	5.0	0.22	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	屋外キュービクル:25年　他該当設備なし	4.0	0.22	-	-	
2.4 信頼性		2.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	―	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	―	1.0	0.20	-	-	
3 電気設備	―	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	―	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	―	1.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
		1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
		2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率] <0.1	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり			倉庫床4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性				3.2	0.40	-	-	
		1	空調配管の更新性	ー	3.0	0.29	-	-	
		2	給排水管の更新性	ー	-	-	-	-	
		3	電気配線の更新性	ケーブルラック等により構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.14	-	-	
		4	通信配線の更新性	ー	-	-	-	-	
		5	設備機器の更新性	ー	3.0	0.29	-	-	
		6	バックアップスペースの確保	ー	3.0	0.29	-	-	
Q3	室外環境（敷地内）			ー	0.57	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出			ー	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮			ー	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上			ー	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			ー	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性					-		-	3.1
LR1	エネルギー				ー	-	-	-	-
1	建物外皮の熱負荷抑制			ー	-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用（直接利用）			ー	-	-	-	-	-
3	設備システムの高効率化			ー	-	-	-	-	-
	集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
	集合住宅の評価				-	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み				-	-	-	-	-
	集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
		4.1	モニタリング	ー	-	-	-	-	
		4.2	運用管理体制	ー	-	-	-	-	
		4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	ー	-	-	-	-	
		4.4	コミッショニングの推進	ー	-	-	-	-	
	集合住宅の評価				-	-	-	-	
		4.1	モニタリング	ー	-	-	-	-	
		4.2	運用管理体制	ー	-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル			ー	0.50	-	-	3.0
1	水資源保護				2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水			ー	1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
		1	雨水利用システム導入の有無	ー	3.0	0.70	-	-	
		2	雑排水等利用システム導入の有無	ー	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減				2.8	0.60	-	-	2.8
	2.1 材料使用量の削減			ー	2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			ー	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			ー	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			ー	1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			ー	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			内装が乾式工法で分別性・設備との錯綜に配慮	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避				4.4	0.20	-	-	4.4
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			ー	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.70	-	-	
		1	消火剤	ー	-	-	-	-	
		2	発泡剤（断熱材等）	ODP=0、GWP=1以下の発泡剤を用いた断熱材を使用	5.0	1.00	-	-	
		3	冷媒	ー	-	-	-	-	
LR3	敷地外環境			ー	0.50	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮			ー	-	-	-	-	-
2	地域環境への配慮				3.2	0.50	-	-	3.2
	2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			ー	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
		1	雨水排水負荷低減	ー	3.0	0.25	-	-	
		2	汚水処理負荷抑制	ー	3.0	0.25	-	-	
		3	交通負荷抑制	ー	1.0	0.25	-	-	
		4	廃棄物処理負荷抑制	ー	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮				3.1	0.50	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
		1	騒音	ー	3.0	1.00	-	-	
		2	振動	ー	-	-	-	-	
		3	悪臭	ー	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
		1	風害の抑制	ー	3.0	0.70	-	-	
		2	砂塵の抑制	ー	-	-	-	-	
		3	日照阻害の抑制	日影規制なし	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目を一部満たし、広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
		2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	ー	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2024年版　　株式会社ベンチャーウイスキー両神貯蔵所新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	－		－	－	－	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		－	2.0	3.0	－	－	－	－	－	－	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		－	－	－	－	－	1.0	1.0	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		－	1.0	1.0	3.0	1.0	－	－	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
4.1.4 コミッショニングの推進	－		－	－	－	－	－								
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	－		－	－	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0		1.0	－	3.0	3.0	3.0	－	－	－	－	－			
2.3.3 交通負荷抑制	－		－	－	－	－	－	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	－		－	－	－	－		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能
- 窓システムSC － 窓の日射熱取得率(η) －
- U値(W/m2K) 窓システム － 屋根 － 外壁 － 床 －
- 住戸部分 窓システムU値 － 外皮UA値 － ηAC － ηAH －

3.1.1 昼光率
- 昼光率 0.0%

4.2.2 自然換気性能
- 自然換気有効開口面積率 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性
- 執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応
- コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観
- 天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース
- リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数
- 想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
- 想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
- 想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔
- 想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり
- 階高 0 m

3.1.2 空間の形状・自由さ
- 壁長さ比率 0.0%

3.2 荷重のゆとり
- 床荷重 ー N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出
- 外構緑化指数 78% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上
- 空地率 43% 水平投影面積率 11% 地表面対策面積率 39% 舗装面積率 20%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制
- BPI/BPIm － 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用(直接利用)
- 影響範囲の割合 0.0% 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
- 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化
- 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kWh

非住宅部分
- BEI/BEIm 再ｴﾈ有 － 無 － ｵﾌｻｲﾄ再ｴﾈ有 －〇〇GJ/年

集合住宅
- 一次エネ削減率 再ｴﾈ有 ####### 無 ####### －

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無
- 雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
- 特定調達品目 － エコマーク商品 － 自治体指定の特定品目等 －

2.5 持続可能な森林から産出された木材
- 使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤
- オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)
- オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1

3.2.3 冷媒
- オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善
- 見付面積比 24% 隣棟間隔指標Rw 1.86
- 地表面対策面積率 55.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%
- 見付面積Sb 727㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 107.7 m 基準高さHb 27.3 m
- 緑地 1,259㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡

CASBEE埼玉県　重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン　CASBEE埼玉県2024年版

:入力欄
※青色セルに必要事項を入力してくださ

1　建物概要

建物名称	株式会社ベンチャーウイスキー	BEE	1.1	BEEランク	★★★

2　重点項目の評価

WLCの削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
0.0	＋	2.6	＝	2.6	

重点項目の各スコアーの合計点

がんばろう	良い	非常によい	すばらしい
6.0未満 	6.0以上 	6.8以上 	8.0以上 

3　重点項目についての環境配慮概要

（1） WLCの削減　　スコア平均　0.0

＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞

LR3　敷地外環境対策	1．地球温暖化への配慮	スコア	0.0

＜配慮した内容を記述＞

（2） 緑の保全・創出　　スコア平均　2.6

＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞

Q3　室外環境（敷地内）	1．生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3　室外環境（敷地内）	3．2　敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3　敷地外環境	2．2　温熱環境悪化の改善	スコア	3.0

＜配慮した内容を記述＞

緑地を設けることにより良好な景観を形成している。